

《そう合問題6》

いろいろなしゅるいの文章問題をといてみよう。問題をとくときは、本文をよく読み、内ようをしつかり理かいることが大切です。

【例題】

次の文章を読み、あとの問いに答えましょう。

ケンタは、きのう買ってもらったグローブを手につけて、お父さんと公園でキャッチボールをしています。

お父さんが、ケンタに聞きました。

「このグローブは子ども用だから、小さくて軽いけど、きのうの大人用のは重くてかたかっただろう。」

きのう、スポーツ用品店で、大人用のグローブもはめさせてもらいました。新しいグローブは、ケンタの力ではまだボールをつかむことができませんでした。

「うん。手を動かすのめたいへん。それに、高いグローブって何万円もするんだね。びっくりした。」

「そうだね。お父さんもはじめて知った。何万円もっていえば、ケンタは、学校で数をいくつまで習ったの。一万って知っていたんだっけ。」

「習ったよ。九千九百九十九の次が一万でしょう。」

「あ、そういうせつ明になるんだ。大人だと、千、二千、三千って数えていって、『九千の次が一万』ってせつ明するなあ。」

お父さんは、なぜか感心した様子です。

「それじゃあ、千が十こ集まると一万になるっていうことも、分かるかい。」

「分かるよ。だって、千円やつが十まいあれば、一万円でしょう。」
「そのとおり。千が十こ集まると一万だから、一万は千の十倍だよ。」

「百の十倍が千で、千の十倍が一万でしょう。それも知ってるよ。ゼロが一つずつふえる。」

「そうだね。じゃあ、一万を数字で書くと、いくつゼロがつくでしょう。」

「えっと、一、十、百、千、万だから、四つ。」

指をおって数えながら、ケンタは答えました。

「さすが。よく分かってるじゃない。じゃあ、一の後にゼロが五つつく数はなあんだ。」

「十万。」

「どこまで知ってるの。」

「一億までやったよ。一億はゼロが、ええつと…。一、十、百、千、万、十万、百万、千万、一億…。九こだったっけ。」

「ざんねん。さいしよに数えた一はゼロがつかないから、おった指が九本なら、ゼロの数はそれより一つ少ないハこ。おった指のいちばん左が一で、ほかの指がゼロって考えてもいいね。」

「そうか。そういうことか。」

ケンタはお父さんにいいことを教えてもらったと、ちよつとうれしくなりました。

- (1) お父さんは、子ども用のグローブと大人用のグローブがどのようにちがうと言いましたか。()に当てはまる言葉を書きましよう。
- 子ども用は小さくて軽いけど、大人用のは()。
- (2) ケンタは、一万をなんの次の数だと言いましたか。
- (3) 千が何こ集まると一万になりますか。
- (4) 一億を数字で書くと、1の後にゼロは何こつきますか。

【かい答】

- (1) 重おもくてかたい
- (2) 九千九百九十九
- (3) 十二
- (4) 八こ

【かいせつ】

文章の中に書いてあることをたしかめて答えましよう。
次のように書いてあります。

- (1) このグローブは子ども用だから、小さくて軽いけど、きのうの大人用のは重くてかたかったらう。
- (2) 九千九百九十九の次が一万でしょう。
- (3) 千が十二集まると一万になるっていうことも、分かるかい。
- (4) おった指が九本なら、ゼロの数はそれより一つ少ない八こ。

次の文章を読み、あとの問いに答えましょう。

ケンタは、公園でお父さんとキャッチボールをしています。のどがかわいたので、水を飲みながら一休み。今はベンチにすわって、数の話のつづきです。

「数って、一を十倍、また十倍ってしていくと、一、十、百って、数のけたがふえていくよね。」

「うん。一じゃない数でも、十倍すると、ゼロが一つふえて、けたがふえる。」

今度は、少し話がむずかしくなってきました。次にお父さんは言いました。

「じゃあ、反対向きに考えてみようか。百をどうするとゼロが一つへって十になるのか、知ってるかな。」

「十倍の反対でしょう。十分の一。」

「よく分かってるねえ。そう、百を十分の一にすると十になる。一万からつづけて十分の一にしていくとどうなるか、言ってみて。反対からって、けっこうむずかしいよ。」

「ええっと、一、十、百、千、万の反対だから、万、千、百、十、一。本当だ、一から言うときには、ぱぱっと言えるけど、反対からだと考えながらになっちゃうね。」

「そうだろう。そういえば、お父さんが子どものころ、いろんな言葉を反対から言うのが、はやったことがあるんだ。なんでだろう。」

「へえ。そんなのおもしろいの。」

「じゃあ、グローブを反対に言ってみて。」

「ええっと、グローブだから、ブローグかな。」

「え、ほんと。ちよつとちがってるんじゃない。」

「そうかなあ。もう一回やってみるよ。グ、ロ、ー、ブでしょ。あ、ブローグか。」

「はは。ね、なかなかむずかしいだろう。じゃあまた数の話だけど、一万から十分の一をくり返して一までいったよね。じゃあ、一を十分の一にしたらどんな数になるでしょう。」

「え、一はいちばん小さい数だから、もう十分の一にはできないうしょう。」

「このことだけ考えると、そんな気もするね。でも、たとえば一メートルのひもを十等分することってできるよね。一だからって、分けられないわけじゃない。そうすると、この十等分した長さを表す数がほしくなる。」

「え。だって、一メートルを十に分けたら十センチメートルじゃないの。」

(1) 数を十倍すると、数の何がふえますか。() に当てはまる言葉を書きましよう。

ゼロが一つふえて、() がふえる。

(2) 十倍の反対はなんですか。

(3) 一万から、つづけて十分の一にしていくとどうなりますか。万から始めて^{はじめ}数を五つ、漢字で書きましよう。

(4) グローブを反対から言うときという言葉になりますか。

(5) 一メートルの十分の一の長さは何センチメートルですか。

次の文章を読み、あとの問いに答えましょう。

ケンタは、公園でお父さんとキャッチボールをしています。のどがかわいたので、水を飲みながら一休み。今はベンチにすわって、数の話のつづきです。

「それはそうなんだけど、センチメートルを使わず、メートルで言いたいんだなあ。そこで、一を十等分した数を、だれかが考えたわけだ。」

「へえ。それでどうなったの。」

「一を十倍したときには、一の右にゼロをつけたよね。そこで、十分の一にしたときには、左にゼロをつけるんだ。それから、ゼロだけじゃなくて小さな点も。ほら、シャーペンシルのしんのケースに、0.5mmって書いてあるの、知らないかなあ。」

「あ、見たことある。」

「ああいうふうに、0.1と書いて、『れいてんいち』って読む。これを小数っていって、しんの0.5mmというのは太さのことなんだけど、0.1ミリメートルの五つ分っていうことになる。」

「そうかあ。でも、ちよつと待って。一ミリメートルって、ものさしのいちばん小さい目もりでしょう。あれの十分の一が0.1ミリメートルっていうことだよ。細いなあ。そんなに細いのに、よくおれないね。」
「そう言われてお父さんも、」

「そういえばそうだね。じょうぶなのに、すらすら書けるし、いったいどうなってるんだらう。」

と、ちよつとふしぎに思ったみたいだ。

一休みして、またキャッチボールを始めた二人は、小数の話のつづきです。

「シャーペンのしんのほかに、小数点を使っているもの、何かないかなあ。」

と、ケンタ。

「そうだなあ、意外に思いつかないなあ。」

「そうだ。おふる場にある体重計、あれ小数じゃないの。するとお父さんがわらって言いました。」

「おお、そうだね。お父さんはこのごろちよつと太って、毎日気にして見ているのに、思い出せないもんだね。今朝はかったら、68.3キログラムだったよ。もう少しへらしたいなあ。小数についている点を、小数点っていうんだけど、68.3キログラムっていうのは、68キログラムと0.3キログラムをたした重さってことだよ。」

「そうか。お父さんの体重は、68キログラムより少し重いなだね。ぼくは27.8キログラムだったよ。」

「え、それじゃあお父さんはケンタの二倍より重いつてことか。ケンタ、早く大きくなってもっと重くなつてよ。」
お父さんがわらいながら言いました。

(1) 一を十分の一にした数を数字で書くとき、ゼロは一のどちらに書きますか。

(2) 0・1や0・5などの数をなんといいいますか。

(3) お父さんはシャープペンシルのしんが「細いのに、よくおれないね。」とケンタに言われてどう思いましたか。
() に当てはまる言葉を書きましょう。

じょうぶなのに() 書いて、ふしぎだ。

(4) シャープペンシルのしんのほかに、小数を使っているもので、二人が思いついたものはなんですか。

(5) ケンタの体重は何キログラムですか。数字を使って書きましょう。

次の文章を読み、あとの問いに答えましょう。

ケンタは、公園でお父さんとキャッチボールをしています。のどがかわいたので、水を飲みながら一休み。今はベンチにすわって、数の話のつづきです。

「数って、一を十倍、また十倍ってしていくと、一、十、百って、数のけたがふえていくよね。」

「うん。一じゃない数でも、十倍すると、ゼロが一つふえて、けたがふえる。」

今度は、少し話がむずかしくなってきました。次にお父さんは言いました。

「じゃあ、反対向きに考えてみようか。百をどうするとゼロが一つへって十になるのか、知ってるかな。」

「十倍の反対でしょう。十分の一。」

「よく分かってるねえ。そう、百を十分の一にすると十になる。一万からつづけて十分の一にしていくとどうなるか、言ってみて。反対からって、けっこうむずかしいよ。」

「ええっと、一、十、百、千、万の反対だから、万、千、百、十、一。本当だ、一から言うときには、ぱぱつと言えるけど、反対からだと考えながらになっちゃうね。」

「そうだろう。そういえば、お父さんが子どものころ、いろんな言葉を反対から言うのが、はやったことがあるんだ。なんでだろう。」

「へえ。そんなのおもしろいの。」

「じゃあ、ホームランを反対に言ってみて。」

「ええっと、ホームランだから、ムラーホンかな。」

「え、ほんと。ちよつとちがつてるんじゃない。」

「そうかなあ。もう一回やってみるよ。ホ、ー、ム、ラ、ンでしょ。あ、シラムーホか。」

「はは。ね、なかなかむずかしいだろう。じゃあまた数の話だけど、一万から十分の一をくり返して一までいったよね。じゃあ、一を十分の一にしたらどんな数になるでしょう。」

「え、一はいちばん小さい数だから、もう十分の一にはできないうしょう。」

「このことだけ考えると、そんな気もするね。でも、たとえば一メートルのひもを十等分することってできるよね。一だからって、分けられないわけじゃない。そうすると、この十等分した長さを表す数がほしくなる。」

「え。だって、一メートルを十に分けたら十センチメートルじゃないの。」

(1) 数を十倍すると、数の何がふえますか。() に当てはまる言葉を書きましよう。

() が一つふえて、けたがふえる。

(2) 十分の一はなんの反対ですか。

(3) 一万から、つづけて十分の一にしていくとどうなりますか。() に当てはまる数を、漢字で書きましよう。

万、()、一

(4) ホームランを反対から言うときどういう言葉になりますか。

(5) 十センチメートルは何メートルの十分の一の長さですか。

次の文章を読み、あとの問いに答えましょう。

ケンタは、公園でお父さんとキャッチボールをしています。のどがかわいたので、水を飲みながら一休み。今はベンチにすわって、数の話のつづきです。

「それはそうなんだけど、センチメートルを使わず、メートルで言いたいんだなあ。そこで、一を十等分した数を、だれかが考えたわけだ。」

「へえ。それでどうなったの。」

「一を十倍したときには、一の右にゼロをつけたよね。そこで、十分の一にしたときには、左にゼロをつけるんだ。それから、ゼロだけじゃなくて小さな点も。ほら、シャーペンシルのしんのケースに、0.5mmって書いてあるの、知らないかなあ。」

「あ、見たことある。」

「ああいうふうに、0.1と書いて、『れいてんいち』って読む。これを小数っていって、しんの0.5mmというのは太さのことなんだけど、0.1ミリメートルの五つ分っていうことになる。」

「そうかあ。でも、ちよつと待って。一ミリメートルって、ものさしのいちばん小さい目もりでしょう。あれの十分の一が0.1ミリメートルっていうことだよ。細いなあ。そんなに細いのに、よくおれないね。」
「そう言われてお父さんも、」

「そういえばそうだね。じょうぶなのに、すらすら書けるし、いったいどうなってるんだらう。」

と、ちよつとふしぎに思ったみたいです。

一休みして、またキャッチボールを始めた二人は、小数の話のつづきです。

「シャーペンのしんのほかに、小数点を使っているもの、何かないかなあ。」

と、ケンタ。

「そうだなあ、意外に思いつかないなあ。」

「そうだ。おふる場にある体重計、あれ小数じゃないの。するとお父さんがわらって言いました。」

「おお、そうだね。お父さんはこのごろちよつと太ったから、毎日にして見ているのに、思い出せないもんだね。今朝はかったら、68.3キログラムだったよ。もう少しへらしたいなあ。小数についている点を、小数点っていうんだけど、68.3キログラムっていうのは、68キログラムと0.3キログラムをたした重さってことだよ。」

「そうか。お父さんの体重は、68キログラムより少し重いなだね。ぼくは27.8キログラムだったよ。」

「え、それじゃあお父さんはケンタの二倍より重いつてことか。ケンタ、早く大きくなってもっと重くなつてよ。」
お父さんがわらいながら言いました。

(1) 一を十倍にした数を数字で書くとき、ゼロは一のどちらに書きますか。

(2) 0・1をなんと読みますか。

(3) ケンタは、シャープペンシルのしんが0・1mmの五分と聞いてどう思いましたか。()に当てはまる言葉を書きましょう。

そんなに細いのに、よく()

()なあ。

(4) お父さんが毎日気にして体重計を見ているのはなぜですか。()に当てはまる言葉を書きましょう。

このごろちよつと()から。

(5) お父さんの体重は何キログラムですか。数字を使って書きましょう。



次の文章を読み、あとの問いに答えましょう。

ケンタは、公園でお父さんとキャッチボールをしながら、算数の話でもり上がっています。

「そういえば、ストップウォッチで時間をはかるときも、小数を使うね。」

と、ケンタが言うと、お父さんが、

「ストップウォッチって、デジタルなの。」

と聞きました。

「うん、そう。スタートのボタンをおして時間をはかり始めてから、もう一度ボタンをおすと、5・26みたいに出る。これも小数なんですよ。」

「そのとおり。5・26の5は、5秒のことだよ。2は、0・2秒のこと。その次の6は、0・1秒よりも短い時間で、0・06秒のことなんだ。」

「それ、何。」

「1の十分の一が0・1だよ。そのまた十分の一が0・01で、0・01が六つで0・06。」

「そんなに短い時間なんか、はかってもしょうがない気がするなあ。」

「たしかにね。だいいち、ボタンをおそうと思ってからおすのに時間がかかるから、いっしょうけんめいはかっても、なかなかピッタリははかれないだろうね。」

「そうか。五十メートル走のタイムをはかったとき、ぼくは十秒六だった。10・6秒っていうことだよ。ストップ

ウォッチには小数が二つ出てるはずなのに、なんでかなど思っていたけど、そういうことか。」

「まあ、あんまり細かいこといってもしようがないっていうことだね。ところで、一のくらかとか、十のくらかとか、いうよね。」

「うん。算数でいろいろやった。」

「さっきの10・6っていう数だと、1は十のくらの数で、0は一のくらの数、じゃあ6はなんのくらの数なのかな。名前がないとこまる。」

「たしかに。」

「小数点の次のくらは、『小数第一』っていうんだよ。」

「へえ、それじゃあその次は『小数第二』ってこと。」

「そのとおり。そうそう、小数点がつかない数は、整数っていう。そして、一より大きい整数と、一より小さい小数をたしてできた10・6も小数という。一より大きい数だけど小数なんだ。小数点がついていれば小数って思ったほうが分かりやすいかな。」

「うーん、なんだかむずかしくなってきたぞ。つまり、とにかく小数点がついてなければ整数ってことね。」

「そうそう。学校でもすぐ勉強すると思うから、そのときにもう一度、しっかり教わって。」

キャッチボールをして、新しいグローブも使って、小数も勉強して、今日はなんだか、いろいろいそがしい日になりました。



(1) ケンタは、何を使って時間をはかる話をしていきますか。

(2) 0.06 秒とはどんな時間ですか。次のア～エの中からえらびましょう。

- ア 0.1 秒より長い時間
- イ 0.1 秒の十分の一の時間
- ウ 0.01 秒の六倍ぼいの時間
- エ 0.1 秒の六つ分の時間

(3) ケンタの五十メートル走のタイムを漢字かんを使って、小数点を使わずに書きましょう。

(4) 小数点の次のくらいをなんといいいますか。

(5) 小数点が見つからない数をなんといいいますか。



次の文章を読み、あとの問いに答えましょう。

ケンタは、公園でお父さんとキャッチボールをしながら、算数の話でもり上がっています。

「そういえば、ストップウォッチで時間をはかるときも、小数を使うね。」

と、ケンタが言うと、お父さんが、

「ストップウォッチって、デジタルなの。」

と聞きました。

「うん、そう。スタートのボタンをおして時間をはかり始めてから、もう一度ボタンをおすと、5・26みたいに出る。これも小数なんですよ。」

「そのとおり。5・26の5は、5秒のことだよ。2は、0・2秒のこと。その次の6は、0・1秒よりも短い時間で、0・06秒のことなんだ。」

「それ、何。」

「1の十分の一が0・1だよ。そのまた十分の一が0・01で、0・01が六つで0・06。」

「そんなに短い時間なんか、はかってもしょうがない気がするなあ。」

「たしかにね。だいいち、ボタンをおそうと思ってからおすのに時間がかかるから、いっしょうけんめいはかっても、なかなかピッタリははかれないだろうね。」

「そうか。五十メートル走のタイムをはかったとき、ぼくは十秒四だった。10・4秒っていうことだよ。ストップ

ウォッチには小数が二つ出てるはずなのに、なんでかなど思っていたけど、そういうことか。」

「まあ、あんまり細かいこといってもしようがないっていうことだね。ところで、一のくらかとか、十のくらかとか、いうよね。」

「うん。算数でいろいろやった。」

「さっきの10・4っていう数だと、1は十のくらの数で、0は一のくらの数、じゃあ4はなんのくらの数なのかな。名前がないとこまる。」

「たしかに。」

「小数点の次のくらは、『小数第一』っていうんだよ。」

「へえ、それじゃあその次は『小数第二』ってこと。」

「そのとおり。そうそう、小数点がつかない数は、整数っていう。そして、一より大きい整数と、一より小さい小数をたしてできた10・6も小数という。一より大きい数だけど小数なんだ。小数点がついていれば小数って思ったほうが分かりやすいかな。」

「うーん、なんだかむずかしくなってきたぞ。つまり、とにかく小数点がついてなければ整数ってことね。」

「そうそう。学校でもすぐ勉強すると思うから、そのときにもう一度、しっかり教わって。」

キャッチボールをして、新しいグローブも使って、小数も勉強して、今日はなんだか、いろいろいそがしい日になりました。



(1) ケンタは、小数を使う道具として、なんの話をしていきますか。

(2) 0.06秒とはどんな時間ですか。次のア～エの中から二つえらびましょう。

- ア 0.1秒より長い時間
- イ 0.1秒より短い時間
- ウ 0.01秒より長い時間
- エ 0.01秒より短い時間

(3) ケンタの五十メートル走のタイムを漢字かんを使って、小数点を使わずに書きましょう。

(4) 5.26の6はなんのくらいの数ですか。

(5) どのような数を整数といえますか。()に当てはまる言葉ことばを書きましょう。

() がつかない数